

15日、裾野へ移る

沼津の屑線処理場



東京電力、四国電力の委託加工をうけ、さらに各支店の故銅蒐集を一手にさばっている沼津の選別作業は、いま大ニギワイを呈している。山とつまれた古電線にかこまれて、炎天下、もくもくと作業をつづける人たち。「前はなかなか入らなくて困ったが、最近の故銅はどうやら順調です」と、溶銅原料の杉本さんはいろ。四棟の若手を指揮して選別に忙しい

広場での立話し。

「選別で大変なのは、各支店のものが、ドット入った時。裸線あり、被覆線あり、ピニールありと手数がかかる」と笑っていたが、「まあ、月平均に同じように使っている場合はよいが、トーマス炉の修理などで、なかなか計画どおりに行かない。そうすると故銅が足りないなんてこともあり、ヤキモキする」そう。

この屑線処理場も十五日には完全に裾野へ移転する。いま、その整理で大変だ。椽の下の力持である。

「じゃ、反ってトーマス炉から遠くなるんじゃない？と聞いたら、

「裾野八万坪を生かしての大構想を実現するための第一歩ですよ」とのことだった。

(写真は杉本さんの指揮でクズ銅処理の四棟所員たち)